

【シラバスⅡ】令和8年度 評価規準

教科名 理科		科目名 理数化学		
時期・単元	内容のまとめり	知識・技能	思考・判断・表現等	主体的に学習に取り組む態度
(7月) 1章 物質の構成 2章 物質と化学結合	1章 1節 物質の探究 2節 物質の構成粒子 2章 1節 イオン結合 2節 共有結合と分子間力 3節 金属結合	<ul style="list-style-type: none"> 物質の構成粒子や量的関係に関する基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身につけている。 分子運動と物質の三態との関係から、代表的な物質について、常温、常圧での状態を理解し、知識として身につけている。 物質の構成粒子や量的関係に関する基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身につけている。 	<ul style="list-style-type: none"> 原子は原子核と電子からなっていて、電子の状態が物質の性質に大きく寄与していることを推論できる。 物質の状態変化は、構成粒子の分子運動に関係し、それが温度や圧力によるものであることを論理的、総合的に判断できる。 物質の性質は、イオン結合、共有結合、金属結合などの結合の違いによって異なることを、代表的な物質の性質の比較から推論できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 物質に関心をもち、物質が原子・分子・イオンなどの構成粒子からなっていることを探究しようとしている。 物質の状態変化の現象について、粒子の運動と関連付けて探究しようとする。 物質の構造は、イオン結合、共有結合、金属結合などの結合の仕方の違いに関わりがあることを、意欲的に探究しようとする。
(12月) 2章 物質と化学結合 3章 物質の変化	2章 4節 化学結合と物質 3章 1節 物質と化学反応式 2節 酸と塩基	<ul style="list-style-type: none"> 物質の性質と、その結合に関連があることを理解している。 物質の概念を用いて、化学変化の量的関係を把握する方法を理解し、知識を身につけている。 酸・塩基の定義を理解し、日常生活と関連付けて酸・塩基反応を捉えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの物質の性質を結合と関連付けて考えることができる。 原子量等と物質の定義を理解し、物質を用いた基本的な計算ができ、化学変化には一定の量的関係があることを考察できる。 酸塩基の定義を理解し、日常生活と関連付けて酸塩基反応を考察できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 代表的な物質の化学変化に注目し、化学変化の量的関係を物質と関連付けて考察しようとするとともに、意欲的にそれらを探究しようとする。 酸塩基や中和反応に関心をもち、それらを日常生活に関連付けて意欲的に探究しようとする。
(3月) 3章 物質の変化	3章 2節 酸と塩基 3節 酸化還元反応	<ul style="list-style-type: none"> pH の指標の便利さと実用性を理解している。 電子の授受や酸化数の変化から酸化還元反応を理解し、知識を身につけている。 	<ul style="list-style-type: none"> 酸塩基の強弱と pH の観察、実験などを通し、科学的に考察できる。 様々な観察、実験を通し、酸化・還元反応の定義と酸化数の定義の有効性を理解し、共通性を見出し、酸化還元反応を論理的に考察できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な物質の pH を測定して考察するなど、身近な現象と酸塩基反応を関連付けて意欲的に探究しようとする。
主な評価方法		定期考査、提出物など	定期考査、提出物など	定期考査、出席状況など
その他				